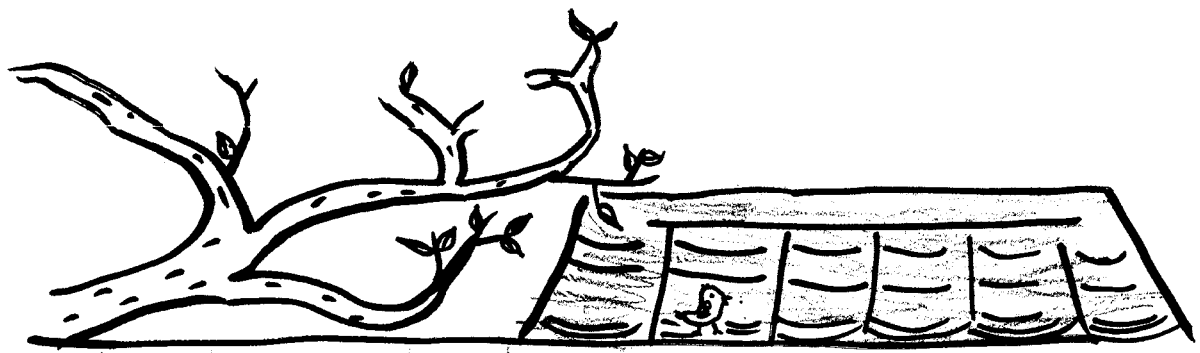




Friends International Work Camps 2002.09.

フレンズ国際労働キャンプ 関東委員会 定例委員会報告 2002年9月号



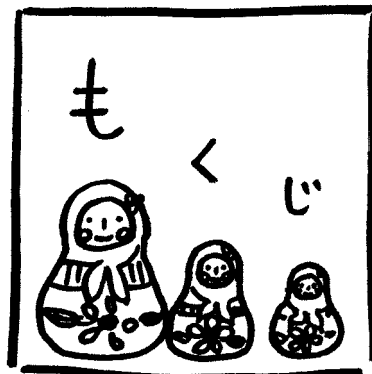
2002年9月

フレンズ国際労働キャンプ(FIWC)
関東委員会 定例委員会報告
2002年9月21日(土)
東京・新中野・目黒鍼灸院にて

参加者：藤澤真人、原田健一、吉田亮
森本友樹、神谷慎司、野村桃、服部雅
行、松長麻美、栢田香織、目黒美穂子、
茂木亮、原田偉太郎、田中祐也

活動報告

ちんどん隊 in 長島愛生園	1
フィリピンキャンプ	2
韓国キャンプ	4
中国ワークキャンプ・下見報告	5
活動予定	
中国ワークキャンプ	6
耶馬溪キャンプ	6
FIWC 関東・会計から	6
次回の定例委員会	6



長島愛生園 2002年8月1日
瀬戸内海にボツカリ浮かぶ長島。海
のむこうには「二十四の瞳」の舞台
である小豆島が見えます。長島には
ハンセン病療養所があります。長島愛
生園と呂久光明園です。愛生園恒例の
夏祭りにFIWCはチンドン隊として
1996年から参加しており今年で5
回目です。以前から愛生園を訪れて親
睦を深めていたメンバーが「療養所内
では高齢化が進み、祭りの会場まで足
を運べない寝たきりの方たちが増えて
いる」と聞いたことがきっかけとなり、
「祭りの賑やかな雰囲気味わって頂

きたい」という思いでチンドン隊を結
成しました。

祭りの前後日は園内の方たちと福引
きの景品の袋詰めをしたり、ちょうち
んを一つ一つついたりといった準備作
業や片付けを手伝いました。

祭り当日。4時間ほどかけて園内を
くまなく練り歩きました。チャンゴ(韓
国太鼓)や三線、フルートなどの楽器
を本格的に演奏する人もいれば、各々
工夫を凝らしたコスチュームに身を
包んで仮装に力を入れている人、音に
身を委ねて踊っている人など：今年
は全国から約50名が集まりました。人数
が多すぎたせいなのか、静かな治療棟
ではあまりの騒々しさに閉口した様子
の方も窺えました。それでも手拍子
をして興味を示してくださる方が多く、
「音」にこめられた思いを共有できた
瞬間を目のあたりにしました。練り歩
きがおわって、祭り会場で演奏したあ
とは自分たちも祭りを楽しましました。
中でも庄巻なのは祭りのクライマックス
に船の上から打ちあげられた花火!!
花火のうつくしさに感動しながら「今
年も来てよかったナ。また来年も…」
と思わずにはいられませんでした。

◎目黒美穂子





リーダー ○ 田中祐也

8月6日〜20日（先発隊1日）、フィリピンのレイテ島アルブエラ地区、カリガトナン小学校において（滞在地サンペドロ）、日本人男女計19名（途中帰国含む）、現地職人数名、現地PTAにより、トイレの設置、井戸の探掘が行われました。

雨季のため、井戸の完成を見ることはできませんでしたが、現地教職員、PTA、職人達により、今後も天候の回復を待つて作業の継続を約束してきました。（9月末現在、未だ天候不順により作業不可能とのこと）

滞在は僅か2週間ですが、各々心の通う交流を図れたことと思います。また、全体としても多くの課題は残されているものの、スタッフの目的は大いに達成されたと思っています。この場を借りて、準備期間から多くのお力添えをいただいた方々に感謝の意を表します。本当にありがとうございました。



満面の笑みで、みんなフィリピンが大好き！

参加するにあたり、各々の動機はあったかと思いますが、スタッフとしては、初めてフィリピンを感じる人たちに、とにかく好きになってもらいたかったのです。いえ、愛してほしかったのです。人、空気、環境、この国の人たちを囲むすべてのものを。逆に、フィリピン人たちにも我々のことを愛してほしかったのです。そして、その目的が達成されたか否か、本人達のみが知ることはありませんが、私は、両方を代表して、達成されたと声を大にして言います。そのことは、我々の中に深く刻まれた「絆」、今なお続く「想い」がすべてを物語ってくれることでしょう。そして、手紙や電話なども続き、新たな交流が始まったことは云うまでもありません。こうした活動を行うと、いつしか錯覚が生まれてくることも否定できません。「モノ」の提供に固執するために、自分達はいい事をしている、役に立っているんだ、という。もちろん、役に立たないことをしているのではありません。が、錯覚というより、忘れてしまふのです。それは「モノ」を中心に考えるからであり、「モノ」には、それを使う「人間」がいます。「人間」には心があり、「想う」のです。我々は学生を中心とした素人ですが、技術的に多くのことは望めません。それは、決して諦めとか、落胆などの類ではなく、現実です。それは、今後の改善点となり、課題となることでしょう。しかし、変わらないものは、「心」です。理想論を並べるわけではありませんが、私はそのことを信じて疑いません。他を想う「心」があるからこそ、人は動くのではないのでしょうか。人を動かすのではないのでしょうか。F・W・Cとして、長く関わっているハンセン病関連のことも、神戸の震災のことも、個々、最初は好奇心云々だったかもしれませんが、やはり、気づくんではないのでしょうか。いつしか、人を「想う」ということに。

「想う」ということに限界はありません。やがて、そのことがその人の「夢」になり、「職」として、基盤を築きあげる原動力となるのかもしれませんが。そういった意味で、我々は、生きている限り可能性を含みつつづけているのではないのでしょうか。我々は、日々歩んでいます。それは、決して死への扉でもなく、希望という天国へ向かうのです。（なんか、私のことを知っている方はいいんですが、初めてみる方は怪しいと「想う（？）」かもしれないですね。要するに、「想う」ということが、人と人を結び、関係を作り上げ、互いに作用しあっていくのだということを、改めて感じたのです。化学反応ですかね？

それは、やはり、ワークキャンプの醍醐味というか、「もの」を作り上げていく過程が、「関係」という、形で言い表すことの出来ないものに通じる「もの」ということもあるからなのではないかな。

現地の人たちは私に言います。かつて、戦争で血を流したものが、今こういう形で知り合えたことは本当に嬉しい。これからは新しい関係を作っていく。それは、我々も同じです。出合いの始まりは突然のことですが、どんな形であれ、それもまた恵り愛なのではないでしょうか。ようやく、アルブエラ地区での知名度、信頼度は上がってきました。ひとえに、かつて、この地域を訪れた皆さんの力があってこそだと思います。訪れた村の人々は、皆さんとの関係がいつまでも続くことを深く願っていました。そして、連絡を待っていました。どうかひとつ、あなたの今の想いを筆に託してください。

日々動く歴史の中で、我々自身の歴史もまた、動いています。逆でしょうか、我々自身が歴史を作っているのですから。そして、地球は円いのですから、我々の心も円くするのです。今後も、ワークキャンプをするにあたり、運営上様々な課題があることと思います。ここではあえて触れませんが、常に、彼らの惜別の涙と、満天の笑顔と温かい心に誓い、キャンプと同様に私自身邁進したいと思っています。最後に、突然舞い込んでくる日本人団体を、誠意を持って対応してくれた彼らにも深く感謝しています。我々は大きなことを学びました。感じました。ありがとうございました。この声が届くように、我々は「想い」続けます。

◎リーダー 田中祐也





フィリピン感想 ○ 藤澤真人

キャンプが終わって1カ月以上たった。あの時の喜び、悲しみ、人の温もりはまだ皆の中に残っているだろうか……。私はワークキャンプに参加してかれこれ5年目になる。キャンプへの参加回数は今回で丁度10回目だ。今まで幾度とワークキャンプを経験してきて、今回のキャンプは色んな意味で良いキャンプだった。例えば、両腕



みんなでワーク地へ、まるで親子のようにみんな仲良し

に刺青をしたいかつい三十路男性が少女に向けるあの素晴らしい笑顔。イモリを怖がって御飯さえ食べられなかった子が気付いたらフィリピン人と恋いに落ちている。小さな少女に気に入られようとしてプレゼントを贈るが、一向に相手にされない馬鹿な男……。おいおい本当に良いキャンプだったのだろうか？ いやいや本当に良いキャンプでした。

あるキャンプに行って帰ってきた時こう聞かれた。その場所のワークは本当に必要なのか？ わざわざ行くよりお金を送った方が向こうの人の為になるのでは？ われわれ素人ボランティアは実際ワークの場において役立たずだと思う。それなのになぜわざわざキャンプに行くのだろうか？ 同じお金を大きなボランティア団体に寄付したほうがよっぽど効率良く援助できるのに、なぜわざわざキャンプに行くのだろうか？ 体壊してパンツにウ



キャンプ中の恋のライバル？

ニコの染みを付けてまで、なんでキャンプに行くのだろうか？ そんなの簡単なことで楽しいからだ。そこに行きそこの人と共に働き、話し、歌い、酒を飲み、恋をする。(決して向こうの女の子や日本のキャンパーにひかれてキャンプに行ってる訳ではない)そして様々な生き様に触れ多彩な価値観、文化、女性に出会う。そして人間や社会について多くの事に気付かされる。そういう事を考えると今回のキャンプは大成りだったのではないかなと思う。

私は、今まで5年間のキャンプ生活で、何人何十人、何百人のキャンパーと一緒に汗を流して喜び悲しみを共にして来たのだろうか、私は今までのキャンプで、同じ釜の飯を食いワークと言う目標に向かってひたすら働いた事を生涯忘れる事はないだろう。そしてこれからもF・W・Cに関わって行くだろう。最後に……。決してキャンプで女の子と仲良くなったキャンプを良



本当に沢山の子供達と出会い友達になりました

いキャンプ、振られたキャンプを駄目なキャンプなんて事は言っていませんのであしからず。

◎ 藤澤真人



今回のキャンプTシャツ。テーマは「友達の輪」

フィリピン感想 ○ 神谷慎司

私にとって、今回の2002夏フィリピンワークキャンプというのは、初めての海外経験であり、また初めてのワークキャンプでもありました。出発するときは期待よりも不安の方が大きかったことを覚えています。フィリピンに着いて私は、一人海辺に腰を下ろして子供たちが遊んでいるのを眺めていました。そこで、近くにいた子供に話しかけてみようと思い、そうしたら、その一人の子供をきっかけにわんさか子供が集まってきました。おそらく20人ぐらいの子供に囲まれていたと思います。現地の言葉はおろか英語もま

ならない私は、初めのうちは動揺していましたが、そのうち身振り手振りでなんとかコミュニケーションできるようになっていました。子供たちはとても楽しそうでした。私はそこで、当初抱えていた不安を一気に解消できたのだと思います。その時から私はフィリピン人に対して積極的に接することができるようになりました。そして、ワークを通じ、ダンスパーティーなどの催しを通じ、または酒を通じてフィリピン人たちといっそう関係を深めることができました。こうして築いていった彼らとのフレンドシップは、今も私の心に生きています。彼らを懐かしく思います。フィリピンから持ち帰ったこうした想いは、日本にいる私にエネルギーを与えてくれます。ワークキャンプに参加しフィリピンに行って、本当によかったです。

◎ 神谷慎司



今回作ったトイレです。こんな立派なトイレを作りました

フィリピン感想〇高津阿礼

私にとって4回目のフィリピン。3回目のキャンプ。学生時代に一番楽しかったことは？と聞かれたら、私は迷わず「フィリピン！」と答える。

①ワーク、②人間交流、③自己成長、この3つが私にとって、キャンプの醍醐味だ。

ワークは本当に意味あるものかといわれれば、戸惑ってしまうけど、でもすごく大切。ワークがなければ、私はフィリピンで手持ち無沙汰を感じてしまう。ワークによって、よりスムーズにフィリピン人と仲良くなれる。何も考えずに、肉体労働をすることは、とても気持ちがいい！ご飯がおいしく食べられる。一生懸命に働く人を見るのがすがすがしい！頑張るといことが、とても純粋なことだと思える。そして、自分たちの手で作られたものが、実際に使ってもらえるのが、何よりも



小学校のフェスティバルでみんなで日本の歌を歌いました



可愛い可愛いピアンカ、僕にもそんな笑顔で微笑んで（真人談）

嬉しい。

2〜3週間、限られた空間の中で生活を共にするということは、とても難しい。遠慮や我慢ばかりしては、自分が疲れるだけだ。だから、キャンプ中は「素」のつきあいが必要になると思う。最初はお互い気を使いつてなんとなくうまくいく。だんだん疲れてきて、相手の嫌いな面が見えてきてぎこちなくなる。それを乗り越えて日本人とも、フィリピン人とも「ともだち」になる。キャンプを通して、私は日比限らず、たくさん会いたい人を得ることができた。これは私の財産だろう。

何も考えずにただ働いて、もしくは働いている人たちを見つめて、友達と語り合っていると、何かが自分の中から生まれてくる。それは、新しい自分の側面だったり、相手を見る目だったり、ひとの優しさだったり、ボランティアについての考えだったり、いろんなことだったりするけれど、どれもこれも大切で、自分の成長の「きっかけ」がない「突破口」であったりする。「考える」ことをやめない限り、全ての経験は、私が成長していく糧になっている。

る。

キャンプは非日常的だと、よく思う。毎日がキャンプであつたら、それが日常になってしまつて、新たな非日常を求めてしまつたろう。ただ、非日常的だからこそ、自分をさらけ出すこともできるし、力の限り楽しむこともできるし、急速に仲良くなれたりもする。そこが、おもしろい。私がキャンプにはまつた理由はそこにあると思う。

今回のキャンプで私は一応スタッフという立場だった。にもかかわらず、キャンパーは本当に私の面倒をよくみてくれた。立場（もともとそんなものはないのかもしれないが）の逆転が大いになされていた。でも、それは、一人一人がフィリピンを好きになった証だと思う。だって、みんなとてもやさしかったから。

ゆうや、いちや、のりこ、ぬけさん、ひろさん、真人さん、りえ、しんじ、大輔、桃ちゃん、カオリン、ゆっこ、ちよこ、おしょう、かおり、なおや、ゆーき、えみ、本当にありがと。大好きです！そして、陰ながら応援してください。愛するフィリピンキャンパー、美代治さん、阿木さん、西尾さん、F-WCのOBの方、ありがとございまして。

今後、小学生がフィリピンでミニワークキャンプをするという夢を実現すべく頑張っていきます！

◎高津阿礼



F-WC2002韓国キャンプでは、2002年8月5日から8月14日まで、大韓民国全羅南道靈安（ヨンアン）郡ヨンホ農園にてハンセン病定着村日韓合同ワークキャンプを行いました。今年の参加者はOBを含め日本側21人で、今年新たに集った学生は10人でした。カウンターパートは例年通り韓国外国語大学の「ハナ会」メンバーと、そのOBであるパクセチヨル氏のインターネット上の呼び掛けによって集った学生を中心に、韓国側で25人程集りました。

今回訪れたヨンホ農園は、村の規模は比較的小さく約50世帯、人口約100人で肉牛の畜産を主に行っています。その中で私達はワークとしては村の道沿いの草刈りを主に行い、また、村人とのコミュニケーションの面では、日本食パーティー、村の子供を対象にした日本語勉強会、家庭訪問、そしてキャンプファイヤーを行いました。

今回のキャンプの期間中、韓国では各地で被害が出る程の大雨に見舞われ、幸い私達の滞在する地域では大きな被害は出なかったのですが、ワークの面では満足した結果が得られなかったといえます。雨によってワークが予定通り進行しない事がキャンプ全体の閉塞感を作り出してしまいました。しかし、このことは事前準備段階での話し合いに雨天時の方向を決める議題を話しておく事で回避できたと思います。ワークだけでなく村人とコミュニケーションをとる方法を予め熟考しておく事が必要でした。

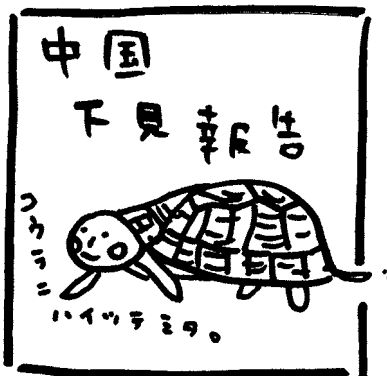
今年のキャンプでは大学1、2年生を中心に新しいメンバーが集ったため、来年度のキャンプへの参加や、そのための企画運営に関わることでできる人材が得られました。これは、今年のキャンプでの反省や各自キャンプに對し感じた個人的な思い入れ等が来年度に大きく反映されると考えられ、今年をステップにした来年のキャンプというものが期待できます。日韓のメンバー間でも頻繁な意見交換が行われています。

そのような日本側メンバーと共に、2002年9月14日、15日には山梨県白州町のキャンパー所有の山小屋で反省会を行いました。反省会では来年度リーダー選出を中心に、今年のキャンプに対する各自の見解を出し合い、来年度のキャンプの方向性を探りました。今年の準備不足、ワークとコミュニケーションの比率、今後のハン

セン病の継続した勉強についてなどが話し合われました。2003 韓国キャンプリーダーは都立保健科学大2年松長麻美に決まりました。

今後、韓国キャンプでは継続したハンセン病勉強会、韓国語勉強会を行っていき、年間通した準備活動を目指していきたいと思います。

◎佐藤正明



9月9日〜17日の日程で、中村博志、西尾雄志、原田僚太郎、茂木亮の4名が、2002年秋から2003年にかけて開催を予定している中国でのワークキャンプの下見に行った。

中国でハンセン病者の支援をしている NGO「HANDA」のスタッフの案内の下、広東省内のハンセン病快復者の住む村や社会復帰施設、また中国の学生とのワークキャンプを実現するため大学を訪問した。

2001年と2002年に関西委員会と韓国のピースキャンプが開催した



リンホウで生活状況を聞いた

ワークキャンプのヤンカンにも訪れたところ、キャンプに参加した西尾と原田は大歓迎を受けた。

キャンプ地となる「リンホウ医院」は広州から500キロ北上したところにある潮州の郊外だ。1960年代に作られたハンセン病のための医院で、その周りに快復者が住んでいる。14人の住民の多くは、歩行ができなかったり、視力がないなど、障害を持っていた。体の自由がきく人は2名ほどで、井戸の水を汲んで運んだり、町へ買出しに行っている。医院の中に住んでいるにもかかわらず、適切な治療がなされているとは言えず、食事も各自が薪で火をおこして作っている。ある人は「お腹いっぱいご飯が食べたい」と話した。

予定しているワークは、現在分散して居住している住民を1箇所に集めて、共同生活に近い形をとれるようにするため、住居を整備する。老朽化が

進んだ住居を取り壊し、新築したり、既存の建物の修繕をする。また、井戸のポンプが壊れているため、新しくポンプやタンクを設置し、水道をひく。トイレやキッチンもつくる。

住居の新築は大半の作業を地元の建築業者に依頼することになり、費用が150万円程（交渉中）になる。そのため、福祉団体などからの助成金やカンパ、キャンプ参加費を高く設定するなどしてまかなう。村人や現地の学生らとのコミュニケーションやキャンプ参加の機会を増やすため、2002年11月2003年2月、8月と3回に分けてキャンプを開催することにした。

11月のキャンプに向け、HANDAのスタッフにも手伝ってもらいながら、準備を進めている。また、森元美代治さん（快復者・元全生園入所）も参加すべく、準備にも積極的に活動していただいている。初回は10名程の人数でキャンプする予定だ。参加を希望する方は、早めにご連絡を。



村人に漢字で自分の名前を書いて渡した

下見の感想

想像していたより、ひどい状況だった。中国へ行く前に、HANDAのマikel医師から送られてきた写真や情報を、笹川記念保健協力財団の山口和子さんを通して見聞きしていた。アジアでのキャンプ地を探していたときにそれらを見て、中国へ行こうと決めた。写真には後遺症で足を切断している人、体を動かせないため棒のように足の細った人、地べたに座って薪で煮炊きをしている様子、そしてポンプの壊れた井戸が写っていた。すべてが悲惨に見えた。実際に訪れて話を聞くと、ますます苦しい生活状況を目の当たりにすることとなった。医療施設であるにも関わらず、適切な治療を受けていなかったり、お金がないために薬が買えない、体の自由のきかない人の生活はほかの村人に支えてもらっていたりする。村人14人に対し、医療スタッフ10人。一見十分すぎるように思える数字だが村人の話によると、1人いる医師ですら毎日村人の様子を見たり、診察している状況を窺い知ることはできなかった。

そんな悪条件の生活を送っている村人だが、僕たちの突然の訪問にも「感謝、感謝」と何度も繰り返し、歓迎してくれた。日本人が訪れることへの抵抗はまったく見えない。漢字で自分の名前を書いて渡したり、笑顔で話しができた。



ヤンカンでは僚太郎くんの送った写真が貼ってあった

ヤンカンを訪れたときの村人の笑顔。「トモコ（本多智子）は来ないのか？」とか、「ギターを弾いていた男（劉成道）は元気か？」とか、再会できることを期待してしてくれた。村を後にするときも見えなくなるまで手を振ってくれた。リンホウでもいい関係を作っていきたくと思った。とりあえず、秋から3回のワークキャンプをすることになった。素晴らしいキャンプになりそうな予感がする。

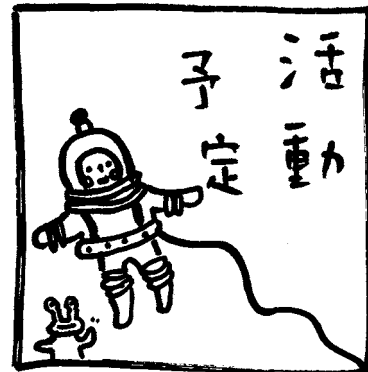
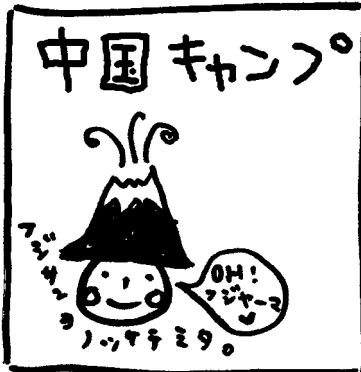
最後に中国では食べ物がおいしかったことを付け加えておこう。毎日の1〜2回は餃子（うまい！）やビーフンを食べ、食の都・潮州では魚介類を何度口にし、ヘビや兎まで食べて、食い倒れツアーって感じでした。広州の餃子屋ではすっかり顔を覚えられて常連さんの仲間入り。いやあ、本当においしいものばかりでした。

◎茂木亮

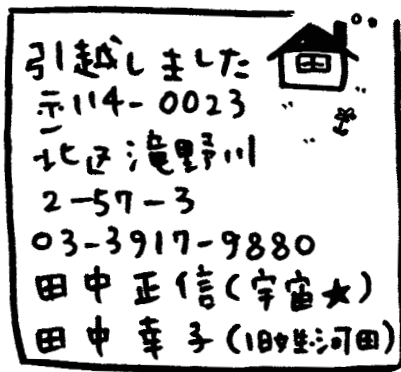
中国キャンプを開催します。2001年から関西委員会と韓国のピースキャンプが広東省のヤンケン村でワークキャンプをしています。関東委員会は広東省北部の潮州郊外のリンホウ村で開催します。ワーク内容は住居の新築、改築、トイレ設置、井戸のポンプの設置と水道整備、また村人の個人的な手伝いワークなどさまざまです。

2002年11月、2003年2月予定、8月と3回に分けて開催します。初回のキャンプではトイレの設置を予定していますが、詳しくは検討中です。

◎茂木亮



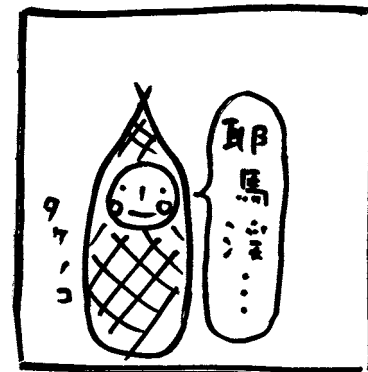
2002年5月に結婚された、キャンパーの田中★宇宙さん、幸子さん夫妻の新居が北区滝野川になりました。11月には出産予定です。みなさんで祝いしましょう。



秋の収穫キャンプ (関西委員会) 10月上旬

大分県耶馬溪で農業を営むキャンパーの鈴木さんのところで、稲刈りの手伝いをします。興味のある方は桜井まで連絡ください。

◎櫻井清栄



11月の定例会担当：原田偉太郎

11月の定例会は、中国ワークキャンプの報告や、2003年春のワークキャンプ紹介など、話題がもりだくさん！



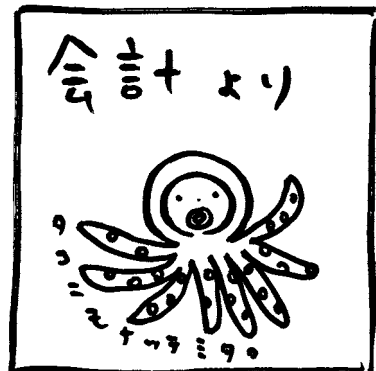
※領収証の発行を希望される方は、その旨お知らせください。

◎郵便振替 口座番号 00170-2-565117

加入者名：F・W・C 関東委員会

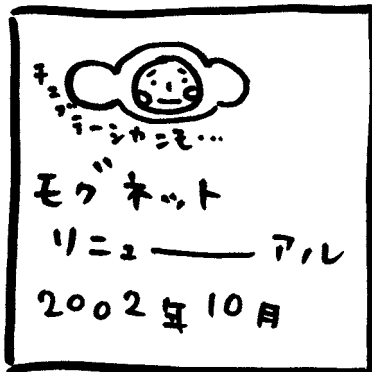
○郵便貯金 記号 10120 番号 62574261

口座名義：F・W・C 関東委員会



F・W・Cの活動やハンセン病問題についてお届けしているWebサイト「モグネット」が新しくなりました。ワークキャンプの感想や意見、ハンセン病問題についての情報など、記事の募集もはじめました。

◎モグネット web@mognet.org



定例委員会報告

2002年9月号

2002年10月10日発行

フレンス国際労働キャンプ(F・W・C) 関東委員会

委員長 西尾雄志

編集：茂木亮 (茂木新聞社)

イラスト：目黒美穂子

※PDF版では、個人の電話番号など、個人情報掲載していません。問い合わせのために連絡が必要な場合は、Eメールで次のあて先までご連絡ください。web@mognet.org



2002年10月リニューアル

モグネット
www.mognet.org

募集中!!

- ワークキャンプの記録・意見・写真
- ハンセン病問題の資料、論文
- 各種イベント情報 などなど

目黒鍼療院

JR中野駅 池袋地下鉄丸の内線 新中野駅 中野新橋入口 消防署 新宿 高円寺 青梅街道 東京三菱 新中野駅 鍋屋横町 交差点 ココ 中野新橋 中野スカイマンション1階 新中野駅下車徒歩3分

東京都中野区本町4丁目5-14 phone 03-3381-9381

定例会はメグシンで
はり治療もメグシンで

月～金：9:30～17:30
土：9:30～16:30
日・祝：お休み